
研究課題

自分の思いや考えを相手にわかりやすく説明できる児童生徒の育成

副題

～習得・活用を取り入れた授業づくりの工夫について～

学校名

ロンドン日本人学校

所在地

87 CREFFIELD ROAD ACTON LONDON UK W3 9PU

ホームページ
アドレス

<http://www.thejapaneseschool.ltd.uk/nihonjingakko/>

1. はじめに

本校は、ロンドンの西部に位置し、地域には多くの日本人が住んでいる。本校の児童生徒は日本の学校と同等の学習環境を求めて通っている。本校では、これまで日本の学習指導要領をふまえ、児童生徒の実態にあわせた研究に取り組んできた。

この3年間は“知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成”が現代の教育的課題の大きな柱であるとし、「課題を解決していく力を高める学習指導」を研究してきた。その中で、相手意識の明確化、話型を使った効果的な表現、活発な話し合いに見られる学び合いの充実、振り返り活動で確認される児童生徒の学習意欲の向上などに成果がみられた。ただ、「身に付けた知識・技能を活用する力・様々な手段を用いて効果的に表現する力」には課題が残った。この知識・技能を活用する力や効果的に表現する力の育成については今後も継続して取り組む必要があると考えた。

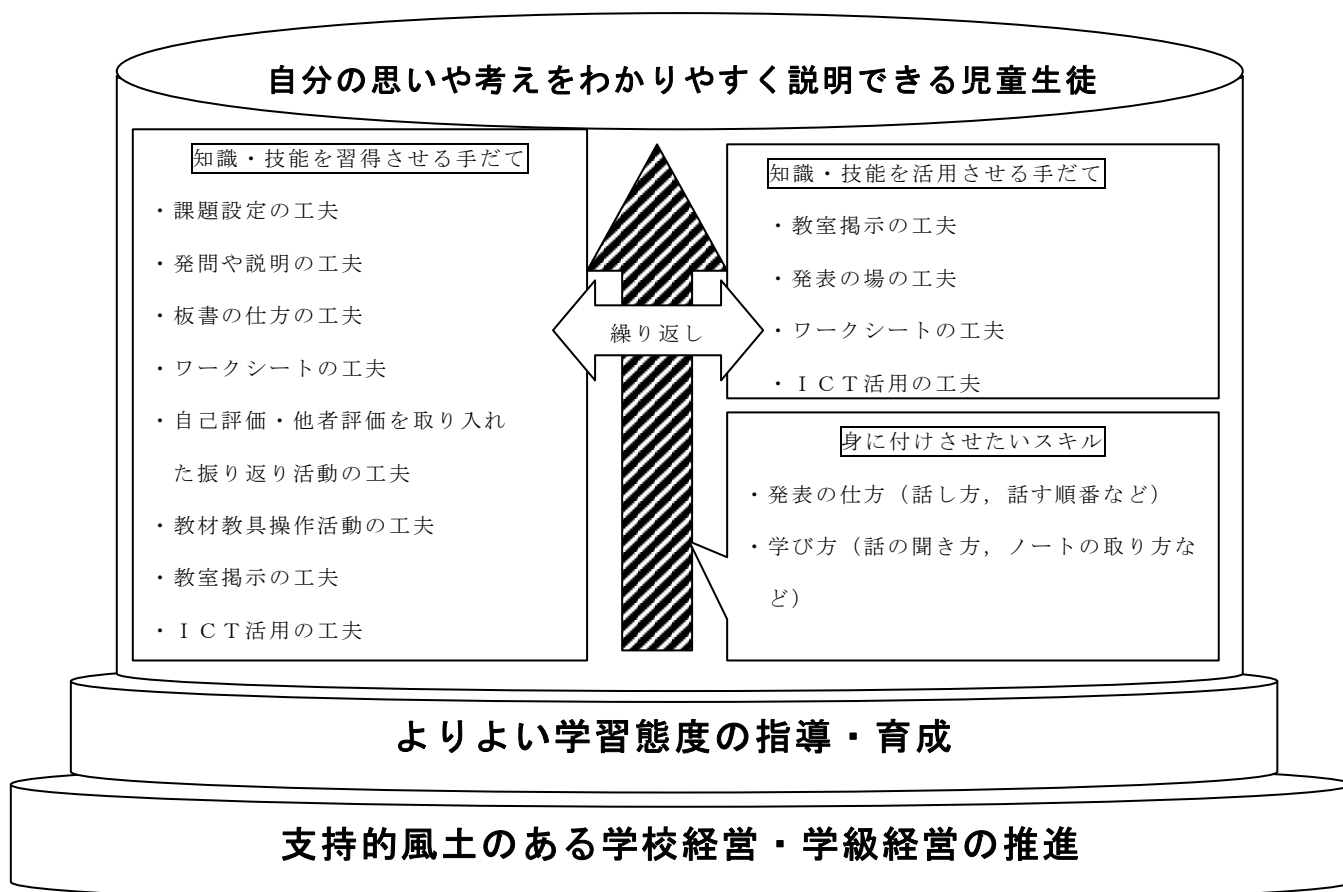
2. 研究の目的・意図

前述により、本年度の研究は、「身に付けた知識・技能を活用する力・様々な手段を用いて効果的に表現する力」の育成に焦点を絞り、目指す児童生徒像を「自分の思いや考えを相手にわかりやすく説明できる」とし、研究を進めることとした。

本研究では、「わかりやすい説明」を、理由・根拠が明快で筋道が通っていること、内容の順序や配列が整っていて全体の内容が整理されているものとした。この2つを達成するために、まず、物事をよく理解すること（基礎的基本的な知識・技能の習得）が大切であるとした。そして、習得したものから考え出された自分の思いや考えをわかりやすく説明する（基礎的基本的な知識・技能の活用）ことを繰り返すこと（例えば、順序や配列が整理されていると相手に伝わりやすいことに気付いたり、説明をしたり聞いたりしているうちに知識が整理され、よりわかりやすい理由や根拠が説明できるようになるなど。）で、目指す児童生徒像に近付くと考えた。また、この「習得」と

「活用」は連動するものであり，切り離して考えるべきではないと考えた。さらに，目指す児童生徒像に近付くためには，発表方法や学び方等のスキルを身に付けさせることも必要であると考えた。具体的には，習得や活用はできているが，声が小さかったり，説明の順番が違っていたりするとわかりやすい説明ができたとは言えないからである。そこで，この「習得」と「活用」およびスキル学習の有効性を検証することを通して，目指す児童生徒像に迫りたいと考えた。

【研究構想図】



3. 研究の内容

この研究の特徴は，目指す児童生徒像に向け，習得型の学習と活用型の学習をどう連続させていくかにあった。そこで以下に実践事例をあげ，その特徴を紹介する。

【実践事例1】 小3社会「店ではたらく人」

この単元は地域の販売の様子を取り上げた。日本のスーパーマーケットとほとんど同じ英国のスーパーマーケットや学校周辺の日本食料品店などを取り上げて学習を進めた。

習得型の学習では，販売の仕事が自分たちの生活を支えていること，お店や働く人の工夫，消費者の願いや工夫，それらが結び付いていること，他地域とのかかわりなどについて，買い物調べや

聞き取り調査などの具体的な活動や、資料の読み取り、話し合い活動などを通して定着を図った。

次に、活用型の学習では、「お客さんによろこんでもらえる自分のお店を発表する」学習を行わせた。「お客さんによろこんでもらえる」ということは、言い換えると「消費者が望んでいる」ということである。児童がこれまでに習得した知識を生かし、思い思いに自分のお店の特徴を考え、文章にまとめた。そして、自分の考えを小集団の中で発表したり、質問やアドバイスを受たりしながら、自分のお店に対する考えをさらに深めていった。

最後に、自分の考えを説明する文章を絵とともに発表し、学習のまとめとした。



この単元の「習得」と「活用」を連続させるための手だての特徴として、既習事項を確実に身に付けるために、学習履歴を掲示したことが挙げられる。また、考えをまとめ表現するために話型「私は～だと思います。理由は、～だからです。」や文型「私のお店の特徴は○つあります。一つ目の特徴は～です。二つ目の特徴は～…」を示すことも重要であった。

【実践事例2】 中1数学「比例と反比例」

習得型の学習では、知識を習得することとして、ともなって変わる2つの量の変化のしかたを表、式、グラフに表し、調べる学習を行ってきた。例えば x 、 y の2つの変数の値をとり、それを組み合わせることで平面上に点をとり、直線のグラフをかく活動を行った。また、その2つの値から、立式するという学習を行ってきた。

活用型の学習では、その習得した知識を活用する場面の一つとして、同じ関数を表す表やグラフ、式や言葉をカードにして、それを組み合わせる活動を考えた。自分が組み合わせたものが、なぜ同じ関数を表すのか、他者に説明することで、自分が理解しているかどうか、自分の知識の確認ができるという効果を期待した。

この単元の特徴は、活用型の学習に関数カードゲームを取り入れたことであった。数学での知識の活用は単に、問題を解くということに結びつけてしまいがちであるが、知識を活用し、生徒の興味関心を得る活動であった。



4. 研究の考察

(1) 習得型の学習、活用型の学習、スキル学習について

本研究において、習得型の学習では、児童生徒の実態に合わせ、手だてを一つだけではなく複数組み合わせることが効果的であった。そのことにより、物事をよく理解し、自分の思いや考えを

もつことができた。

特に、具体物を使ったり、図や表に表したりするなど視覚的に見やすくする工夫や、習熟の時間の確保などの様々な習得型の学習の手だての工夫により、学習の定着が見られ、その後の話し合いや意見交流が活発になった。このようなことから、習得型の学習の手だての工夫により、基礎的基本的な知識・技能をしっかりと身に付けることができたといえる。

また、活用型の学習では、説明の仕方を示したり、学習履歴（既習内容）を活用させたりすることにより、筋道を立てて自分の考えをわかりやすく説明する児童生徒の姿が見られた。

さらに、スキル学習は、特に低学年において、説明方法として話型や文型を提示することが、考えをまとめて表現するには有効であった。発達段階に応じて、相手を意識して、話型や文型にとらわれすぎることなく説明することが大切であることもわかった。

このような考察を通して、知識・技能の確実な習得と知識・技能の活用を繰り返し行うとともに発表方法や学び方等のスキルを身に付ければ、身に付けた知識・技能を活用する力・様々な手段を用いて効果的に表現する力が向上し、自分の思いや考えをわかりやすく説明できる児童生徒を育成できたと考える。

ただ、わかりやすく説明する力を育成するには、説明を繰り返し行うことが必要であり、限られた時間の中で、いかに時間を確保するかが課題であることもわかった。この課題への改善に向け、今後もさまざまな工夫を考えていきたい。

（２）手だての特徴について

この研究で実践された授業の中から、習得型の学習・活用型の学習およびスキル学習の手だての特徴は次のように分類できた。

習得型の学習の主な手だて

■ 視点のもたせ方

具体物を提示するなど、ものの見方を明確にしたり、図や表に表し視覚的に見やすくさせたりするための手だて。

■ 導入の仕方

日常で使われるものを用いたり、ゴールをイメージさせたりするなど、興味関心を高めるための手だて。

■ ノートやワークシートの記入の仕方

解き方の説明を記入したり、自分の考えを記入すると発表原稿になったりするなど自分の思いや考えを表すための手だて。

■ 板書の記入

学習履歴が残る書き方をするなど確実に理解するための手だて。

■ ICT活用

ICT 機器を使い、視線を集中させるなど、課題を共有させるための手だて。

活用型の学習の主な手だて

■ 学習履歴の揭示

活用するためのアイデアを得るための手だて。

■ 課題設定

理解を深めることや既習事項の定着を確認するための手だて。

■ 発表方法（ペア、グループ、全体などの相手への発表する場）

| | 長所 | 短所 |
|----|--|---|
| ペア | <ul style="list-style-type: none">・ たくさんの人が発表できる。・ 個人スキルの向上によい。 | <ul style="list-style-type: none">・ 個人の思いや考えを全体で共有しにくい。 |
| 全体 | <ul style="list-style-type: none">・ 全員が発表を聞くことができ、その良さを共有できる。・ 課題がある場合は教師側でアドバイスが可能である。 | <ul style="list-style-type: none">・ 一部の児童生徒しか発表することができない。 |

長短所を生かした場を設定するなど、発表しやすくさせるための手だて。

■ 説明のパターン化や説明のパターン化を崩すこと

話型を示し、パターン化をはかるなど、説明をしやすくするための手だて。

発達段階に応じてパターンを崩すなど、相手を意識した説明の仕方を考えさせるための手だて。

スキル学習の手だて

■ 説明方法の提示（話型）

話し方や聞き方を統一するなど、発表をしやすくさせるための手だて。

■ 図や表の使い方

図や表を使い説明する方法を教えるなど、わかりやすく説明させるための手だて。

5. 研究の成果と今後の課題

自分の思いや考えをわかりやすく説明できる児童生徒の育成をめざして、研究を進めた結果、まず物事をよく理解することが自分の思いや考えをもつために重要であることが明らかになった。実践の手だては複数あり、それらを組み合わせて授業を行った。また、自分の思いや考えをわかりやすく説明することを繰り返し行うことも同様に重要だということが明らかになった。

この自分の思いや考えをもつという「習得」とわかりやすく説明するという「活用」は連続して

いるものであり、両者を意識して単元全体の計画を考えなければならなかった。その点から考えると、「習得」と「活用」を取り入れた授業づくりとは、単元全体の中で、単元目標を達成するというゴールを意識して、様々な手だてを講じることだといえる。

自分の思いや考えを相手にわかりやすく説明するという、言い換えれば、思考力・判断力・表現力の育成は、今日の教育課題から生み出されたものであり、すぐに解決できる課題ではなく長期的視野に立って育成を目指していかなければならない。

この育成を図るために新学習指導要領に示された習得・活用という教育方法の捉え方を取り入れた授業づくりは、一定の成果を上げたが、この研究はまだ始めたばかりである。次年度は、今年度の反省を活かし、研究を進めていきたい。

参考文献

『教師が磨き合う「学校研究」』木原俊行（著） ぎょうせい

『活用型学力を育てる授業づくり』木原俊行（著） ミネルヴァ書房

『すべての子どもがわかる授業づくり—教室でICTを使おう』高橋純・堀田龍也（著）高陵社書店